

専任教員の 独り言

東日本を襲った大地震…東京に暮す私も幾分の被害は受けましたが、津波に街がのみ込まれていく映像には息がつまり、涙がとまりませんでした。

NHK教育テレビ「福祉ネットワーク」は比較的早い時期から、「福祉の側からの震災報道」を始めました。障害のある人たちにとって環境の激変、すし詰め状態の避難所生活がいかに厳しく困難なものであるか、葉不足や停電によって生命の危機にさらされる人がいること、子どもには特別な心のケアが必要であることなどを訴え、被災地周辺での医療、福祉相談窓口の紹介も行っていました。

阪神淡路大震災の時は「手話ニュース」が安否情報に切り替えられ、関係者から批判の声があがりました。今回は震災直後の首相や内閣官房長官の会見には部分的ながら手話通訳がつくなど、幾分の改善が見られました。直前に起こったニュージーランドの地震報道では、屋外での緊急の会見にも必ず手話通訳があったことを思うと、まだまだ多くの課題があると思います。字幕放送、音声多重放送など「情報弱者」を作り出さないための取り組みは、日常的に必要なことのはずです。

阪神大震災の時に報道されなかったことに、女性や子どもたちが受けた性暴力被害があります。避難所の物陰で身体を触られた、倒壊家屋に引きずり込まれた、「お風呂ツアーのボランティア」を名乗る男たちのワゴン車に乗せられた、警察に届け出たが無視されたなどのことが、震災後に明らかに



社会福祉士養成所

専任教員 中野 恵美子

されました。テレビは当然のように避難所の内部を映し出しますが、プライバシーへの配慮はされているのか、雑居状態の中で着替えや授乳はできるのか…ひとりひとりの心のケアと同時に、誰にとっても安全で快適な避難所の運営は、地域福祉の課題のひとつとして考えていかなければならないテーマだと思っています。

自らも被災しながら活動を続ける医療・福祉関係者、家族の消息が分からない中、ボランティア活動をはじめた中高生…困難な中で立ち上がる人々の姿は、人間は決して無力ではないことを教えてくれます。各地の社会福祉士の活動も始まっています。大きな試練の中、力を合わせて住みやすい福祉社会をつくっていくという課題に向かって、共に歩んでいきたいと思います。

(近著：(財)日本リハビリテーション協会発行『ノーマライゼーション』特集：文学に見る障害者像「自伝に見る障害女性の生き方」2010年11月号／「地域に暮した人たちの姿」2011年4月号)

* * おすすめ!! 知的障害者福祉協会発行の本 * *

「はじめて働くあなたへーよき支援者を目指してー」2011年
「知っておきたい知的障害者の医療と保健衛生」2010年

●●●平成23年度スクーリング日程●●●

【第22期生】	スクーリングⅢ	
東京国際フォーラム	平成23年8月27日～28日	
【第23期生】	スクーリングⅠ	スクーリングⅡ
東京国際フォーラム	平成23年8月19日～21日	平成24年2月25日～26日
名古屋ルーセントタワー	平成23年8月5日～7日	平成24年2月18日～19日
梅田スカイビル	平成23年7月29日～31日	平成24年2月11日～12日
八重洲博多ビル	平成23年9月9日～11日	平成24年3月10日～11日

国家試験に向けてのおすすめ図書

- 国民の福祉の動向 (厚生統計協会)
- 厚生労働白書 (厚生労働省)
- 週刊福祉新聞 (福祉新聞社)
- 必携社会福祉士 (筒井書房)
- 社会福祉士・受験ワークブック (中央法規)
- ワイド版社会福祉小六法 (資料付) (ミネルヴァ書房)

平成23年度 購読のご案内 2011年4月号 (No.651)～2012年3月号 (No.662)

知的障害福祉研究 **support** さぼーと

- 毎月15日発行
- A4判 68ページ
- 1部 580円(税・送料)
- 年間購読料 6,300円(税・送料)

★ 協会加入施設職員の方は5,000円で年間購読できます (1部 470円)。

お申し込みは yoseijo@aigo.or.jp ☎ 03-3438-0467 FAX 03-3431-1803
当協会『さぼーと』係まで <http://www.aigo.or.jp/>

※養成所に対するご要望・ご意見等ございましたら、ご連絡ください。 yoseijo@aigo.or.jp

●通信教育 Q&A 受講生の方からよくある問い 合わせについてお答えします。

Q1 引越で住所が変わったのですが?

A ●住所・氏名・勤務先に変更が生じた場合には、すみやかに住所・氏名・勤務先変更届により届出てください。
●上記変更は本養成所ホームページの登録変更フォームより登録変更することも可能です。
●住所を変更した場合は、上記届出とあわせて、郵便局にて転送手続きを行ってください。

Q2 修了証明書を請求したいのですが?

A ●国家試験の受験等、本養成所修了後に修了証明書が必要な場合は、次の2点を用意し、本養成所庶務部あてに請求してください。
①修了証明書交付願(受講の手引・ホームページに様式添付)、
②返信用封筒(返信先を明記し、80円切手を貼付したもの)
●交付に際して、手数料は必要ありません。そのため、返信用封筒がない場合や交付願による請求でない場合は、発行できませんので、ご注意ください。

Q3 レポートを郵送する際、1教科毎に1枚の封筒で郵送した方がよいのでしょうか? また、複数教科を1枚の封筒に同封してもよいのでしょうか?

A ●複数教科のレポートをまとめて送付してください。(そうしない場合封筒が足りなくなります。また、費用も少なく済みます。)

Q4 ワープロを使用した場合、用紙はどうすればよいですか?

A ●原則として、本養成所指定の原稿用紙にマスを合わせて、印字をしてください。
●指定原稿用紙を使用できない場合は、同じ様式 (A4版・横書き・30字×40行の1,200字) にして、作成してください。欄外には科目名、課題番号、学籍番号、氏名を必ず記入してください。
●評価 (採点) する側にとって、読みやすいことが大切です。

養成所ニュース

第23期生291名が受講スタート!

「第23期・新受講生を迎えて」

財団法人 日本知的障害者福祉協会 社会福祉士養成所



所長 中原 強

平成23年3月11日に発生しました「東北地方太平洋沖地震」の発生から、三ヶ月が経過しました。この度の震災では、1万5千名を超える尊い命が失われ、今なお多くの方々の行方がわからない状態が続いています。

本協会会員の中にも、この震災により命を失われた方や、住む家や施設等を失われた方などが多数いらっしゃいます。

この震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々及びそのご家族等関係者の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

5月に震災の復興対策を中心とする平成23年度第一次補正予算が国会で成立しました。その一つとして、被災地の避難所等で生活する高齢者・障害者等に対して、専門職種 (介護支援専門員、社会福祉士、精神保健福祉士等) による相談・生活支援等を行う費用を補助する項目が計上されました。これは、社会福祉士等の専門職に対する役割が示されるとともに、専門的知識や技術が実践現場において求められていることを読み取ることができます。

被災地域の復興のためには、長期的な視点での継続的な支援が必要となります。そして、被災地域の障害のある方やそのご家族、支援者の方々が、震災前と同じように安心して暮らせるよう、全力を挙げて支援を行う必要があります。その過程においては、社会福祉士及び介護福祉士法第47条にある「連携」が専門職としての働きをするうえで大切となります。

これから益々、社会福祉士を中心とした専門職の力が必要とされ、その力量が試される時代となります。多くの方々が仕事や家事等多忙な中での受講になるかと思えます。今後におけるご健闘を心からお祈り申し上げます。

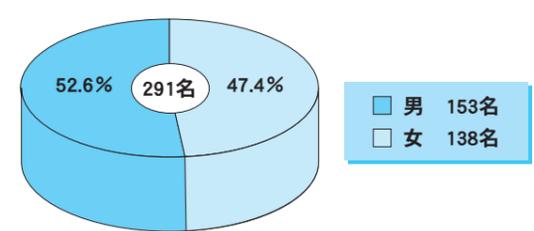
■第23期生の概要 (平成23年4月現在)

第23期生社会福祉士養成所の受講生は、291名です。概要については下記の通りとなります。

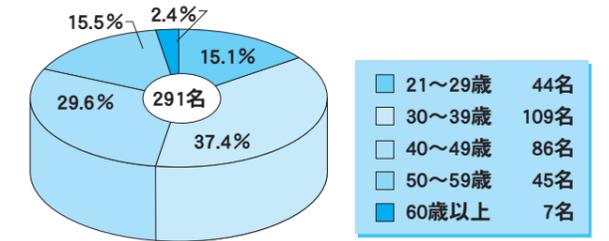
●運営状況 (過去3年間)

年度 (期生)	応募者数	入学者数	修了者数
平成21年度 (21期生)	285名	260名	235名
平成22年度 (22期生)	240名	219名	
平成23年度 (23期生)	308名	291名	

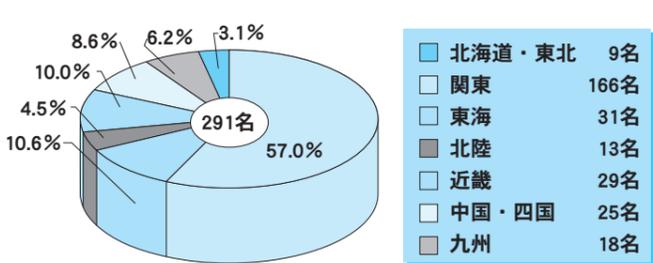
受講生男女比



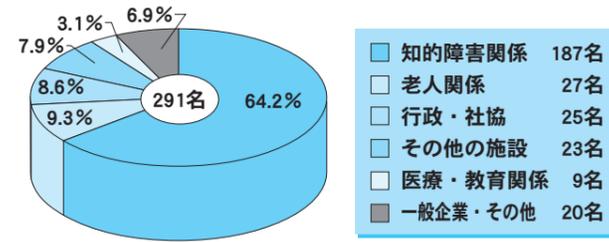
年齢別分布



地区別分布



勤務先種別



第23回国家試験結果報告

第23回社会福祉士国家試験において本養成所より202名（うち22年度修了者101名）が合格しました。昨年度（第23回試験）は224名（21年度修了者133名）でした。

これまでの国家試験の結果

試験回数	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)
第1回試験			
第10回試験	52,812	14,076	26.7
第11回試験	16,206	4,774	29.5
第12回試験	19,812	5,749	29.0
第13回試験	22,962	6,074	26.5
第14回試験	28,329	8,343	29.5
第15回試験	33,452	10,501	31.4
第16回試験	37,657	10,733	28.5
第17回試験	41,044	12,241	29.8
第18回試験	43,701	12,222	28.0
第19回試験	45,022	12,345	27.4
第20回試験	45,324	13,865	30.6
第21回試験	46,099	13,436	29.1
第22回試験	43,631	11,989	27.5
第23回試験	43,568	12,255	28.1
合計	519,619	148,603	28.6

国家試験の結果（養成所修了者）

試験回数	総数 合格者数(名)	新卒			既卒		
		受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)
第16回試験	199						
第17回試験	241						
第18回試験	235						
第19回試験	196						
第20回試験	253	262	146	55.7	408	107	26.2
第21回試験	212	244	124	50.8	434	88	20.3
第22回試験	224	262	133	50.8	423	91	21.5
第23回試験	202	206	101	49.0	426	101	23.7

●第23回社会福祉士国家試験合格基準●(文章一部省略)

次の2つの条件を満たした者を合格者とする。

- ア 総得点150点に対し、得点81点以上の者(総得点の60%程度を基準とし、問題の難易度で補正した。配点は1問1点である。)
- (1)のアを満たした者のうち、以下の18科目群すべてにおいて得点があった者。
 - ①人体の構造と機能及び疾病
 - ②心理学理論と心理的支援
 - ③社会理論と社会システム
 - ④現代社会と福祉
 - ⑤地域福祉の理論と方法
 - ⑥福祉行財政と福祉計画
 - ⑦社会保障
 - ⑧低所得者に対する支援と生活保護制度
 - ⑨保健医療サービス
 - ⑩権利擁護と成年後見制度
 - ⑪社会調査の基礎
 - ⑫相談援助の基盤と専門職
 - ⑬相談援助の理論と方法
 - ⑭福祉サービスの組織と経営
 - ⑮高齢者に対する支援と介護保険制度
 - ⑯障害者に対する支援と障害者自立支援制度
 - ⑰児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
 - ⑱就労支援サービス、更生保護制度

◆第24回（平成23年度）社会福祉士国家試験（予定）◆

1. 試験の日時及び試験科目

試験日	試験時間	試験科目
平成 24年 1月 29日 (日曜日)	午前 10時00分 ～12時00分	①人体の構造と機能及び疾病 ②心理学理論と心理的支援 ③社会理論と社会システム ④現代社会と福祉 ⑤地域福祉の理論と方法 ⑥福祉行財政と福祉計画 ⑦社会保障 ⑧低所得者に対する支援と生活保護制度 ⑨保健医療サービス ⑩権利擁護と成年後見制度 (76問)
	午後 1時30分 ～3時30分	⑪社会調査の基礎 ⑫相談援助の基盤と専門職 ⑬相談援助の理論と方法 ⑭福祉サービスの組織と経営 ⑮高齢者に対する支援と介護保険制度 ⑯障害者に対する支援と障害者自立支援制度 ⑰児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 ⑱就労支援サービス ⑲更生保護制度 (74問)

2. 受験手数料

5,580円

3. 受験申込書の受付（提出）期間

平成23年9月8日（木曜日）から10月7日（金曜日）（消印有効）まで

※上記の最新情報、受験申込書類『受験の手引』の請求方法や『出題基準・合格基準』については、社会福祉振興・試験センターのホームページ（<http://www.sssc.or.jp/>）を参照してください。

◆国家試験合格者の声◆

中谷 竹代さん

平成21年度より、スクーリング科目が減りレポート中心の学習方法に変更になりました。学習に不安な私は、受験対策講座で補いました。社会福祉士会、中央法規の実力編と最終編、社養協の三つの講座です。又、模擬試験は10月に社養協、11月に社会福祉士会、12月に中央法規を受け、時間配分の予行練習としました。各回講師によるポイント解説を申し込み復習し、失点には本試験でなくてよかったと考え、挽回を目指しました。受講では、志を持つ仲間や講師の話から良き刺激を受けたり、時間も費用も費やした分「絶対合格」しようと覚悟ができました。次々増える講座レジメには、全科目19冊リングファイルを用意し、散在を防ぎました。

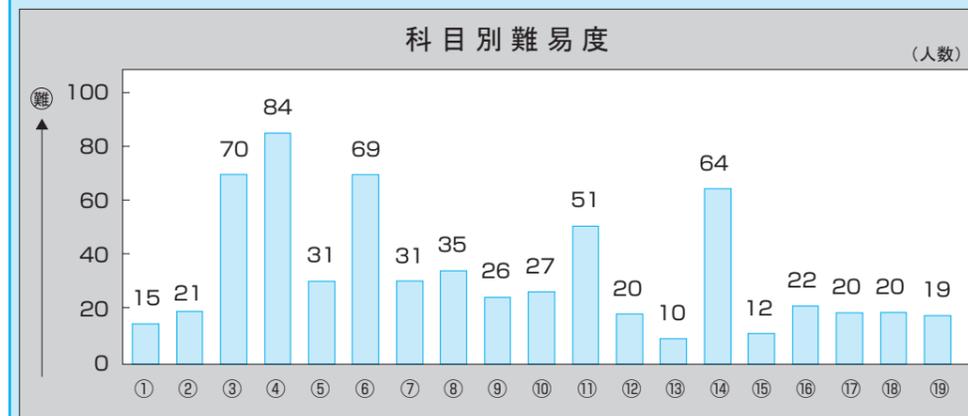
レポート作成では、テキストを丁寧に読み、設問意図を吟味しつつ背景を踏まえました。調べ学習として高等学校教科書『日本史』『現代社会』『政治経済』が役立ちました。また『福祉新聞』を定期購読、NHK放送の『福祉ネットワーク』『社会福祉セミナー』を視聴し、社会福祉動向の理解を深めました。単なる丸暗記では身につかないので、「知りたい」「興味ある」を弾みに、勉強を楽しむことで頭に入れました。それでも受験では暗記力で合否が決まります。中央法規のワークブックを中心に書いて覚え過去問を繰り返

返しました。覚えた項目は必ず翌日に復習した後に、新しい項目に取り掛かりました。この毎日の復習習慣が暗記の定着に繋がりました。

私は一年生時に急な引越しが決まり休学か退学か迷いました。養成所に相談したところ、「大変だが、学ぶ勢いがある時、修学を続ける方が良い」と助言されました。同時進行に相談援助実習、レポート作成、引越しをこなすことで、一意専心する大切さを得ました。養成所の励ましをいただきまして、現役合格できました。『志ある者は事竟に成る』と申します。勉強で心が折れそうな時、学ぼうとした決意を決して手放さないで下さい。自分を鼓舞できるのは自分しかいません。腹を括って進んで下さい。私は「学びたい」を一念に、猛勉強した在籍二年間こそ夢の実現だったと振り返ります。次は貴方が合格する番です。ご健闘をお祈りいたします。



第23回国家試験に関するアンケートについて



平成22年11月に修了した第21期生235名を調査対象とし、182名（①受験をした164名、②申込をしたが当日受験しなかった9名、③申込をしなかった9名）からの回答が得られました。

図は受験者の回答をもとに難易度数（難しいと答えた人数）を示しています。

横（項目）軸の囲み数字は、試験科目の囲み数字の科目名を示しています。

※厚生労働省への報告のため、現在もアンケートは回収していますので、未提出の方は早急に提出してください。

◇残念ながら合格できなかった方々からの反省とコメント◇（アンケートより抜粋）

- ・結果的には不合格でしたが、学ぶことが多くあり現在の仕事に役立ちました。再度取り組み方を考えたいと思います。
 - ・合格ライン以上の得点があったが、0点科目があり不合格でした。非常に悔しいが、これからは毎日コツコツと5分でも勉強する機会を作って取り組みたい。
 - ・平均的にすべての教科を学び、その後自分の苦手科目を重点的に勉強するべきだった。
 - ・模擬試験をしっかりと行うべきだったと思います。経験不足でした。
 - ・過去問題を解いていたのだが、ただ解くばかりでなくきちんと解答の意味を理解するようにすれば良かった。
 - ・まずは基礎をまんべんなく学習して、次回の試験に備えたい。
- ※その他のコメントについてはホームページに掲載しています。